

「自ら考え、進んで学習に取り組む児童の育成」

～効果的な「見通し・振り返り」の学習を通して～

各教科等の学習過程において、「見通し・振り返り」の学習活動を意図的に設定し、工夫することで、子どもたちの主体性と思考力・表現力・判断力等を育むことを目指していく。

I 研究の内容

1 授業づくり

(1) 児童の実態把握，学力検査の実施と分析

(2) 一人一実践と検証授業の実施

2 学級集団づくり(甲州プロジェクトと関わって)

(1) Q-U調査の実施(2回)と分析

(2) 互いに認め合い，高めあえる集団づくりをめざした学級活動の取組

(3) 「朝の基礎学習」の取組

(4) 家庭学習や学習規律の確立の取組

3 研究実践

(1) 学習会

「単元を貫く言語活動を位置づけた国語科の授業づくり」

～子どもたちが主体的に思考し，判断し，表現する授業づくりをめざして～

指導助言 峡東教育事務所

柴田幸也指導主事

(2) 研究授業

第6学年 算数科「角柱や円柱の体積の求め方を考えよう」

金井 巖教諭

指導助言 峡東教育事務所指導主事

柴田 幸也先生

第2学年 国語科「音読劇をたのしもう お手紙」

廣瀬みどり教諭

指導助言 県義務教育課指導主事

重田 誠 先生

(3) 実践授業

第1学年算数科「どんなけいさんになるのかな」

廣瀬きよ美教諭

第3学年体育科(3・4年合同体育)「マット運動」

三森 明美教諭

第4学年算数科「広さを調べよう」

塩澤 美希教諭

第5学年社会科「工業のいまと未来」

吉本 賢司教諭

第5学年理科 「流れる水の働き」

阪本 辰彦教諭

いちよう学級6学年算数科

「形が同じで大きさが違う図形を調べよう」(拡大と縮図)

若月美乃里教諭

II 成果と課題

1 授業づくり

○様々な調査結果を分析し，児童の実態把握をすることで，児童の課題や目指す子ども

像が明確になり、授業に活かしていくことができた。

- 「めあて」, 「予想」, 「振り返り」, 「まとめ」などのプレートを提示し、問題解決の過程を基本にした効果的な「見通し・振り返り」の学習を行うことで、確実に児童の学力が向上してきた。自力解決が難しい子にとっても、見通しを持たせることで、学習意欲が高まった。
- 様々な教科において「見通し・振り返り」に重点を置いた授業実践を行うことで、実際に「見通す・振り返る」活動をどのように設定していくか、多様な見通しの持たせ方や振り返りのさせ方を学び合うことができた。
- 「見通す」ことで子どもたちがめあてに向かって進んで学習活動に取り組み、「振り返る」ことで、学習内容がどれだけ理解できたかを実感できるものになった。特に「書く」機会を授業や日常的な場に意識して設定し、取り組んだことで、自分の考えや思いを進んで書くことができるようになってきた。
- 「聞く」ことについては、発表する機会や場を工夫し増やしたことで、友だちの意見や考えを聞く楽しさを感じられる児童も増えた。
- 前年度の単元を貫く言語活動の研究も活かし実践したことで、その有効性を改めて確認できた。
- ICT機器を活用することで、児童の課題に対する興味関心を高め課題把握をさせることができた。また、集団解決や振り返りの過程では、資料や活動場面等の提示をすることで、児童が自分の考えを伝えあったり書いてまとめたりすることができ、効果的であった。
- ▲教師主導で一方的に見通しを提示することが多かったので、子ども自身が自分のことばで表現できるように授業を改善していく必要がある。

2 集団づくり

- QUやNRTの結果の考察をもとに、個々の子どもへの配慮や具体的な方策等を考え、日々の学級経営に生かすことで実践できた。子どもの思いを知り、よりの確に理解するためにQUは効果的で、これからも継続していきたい。
- 市で取り組んでいるQUアンケート結果を活かした授業実践の取り組みが定着してきている。
- 学習規律等、学校全体で取り組むことが有効であり、定着につながってきた。担任だけでなく、管理職や教務なども含め全校職員で指導にあたった。
- 朝学習や朝読書活動が児童にも浸透し、定着してきた。図書活動の取組の工夫もあり読書量も増えている。

III 成果物

- 1 研究授業、授業実践の指導案
- 2 音読のポイント表（低学年）
- 3 表現のための話形〔高学年〕

（研究主任 廣瀬きよ美）